

## 連続シンポジウム「引揚を語る、引揚を考える」(第1回)

・日時 :10月26日(土)13時半~16時半

・会場 :上智大学図書館 9階 L-921室

### I. 趣旨

第二次世界大戦終結後、ヨーロッパではドイツ人の追放が東アジアでは日本人の引揚が行われた。東アジアでは、日本人に限らず、旧帝国圏の朝鮮人や台湾人などの引揚があり、同時に定着や残留があった。それは戦後社会の再編において重要であったが、多角的な検討は十分なされないまま、忘却の彼方に追いやられている。

そこで、まずなによりも(1)少年期に引揚等を体験した方々の「引揚を語る」場を設けたい。そして、その体験談や活動等を手がかりに、(2)その戦後日本社会や東アジア社会にとってのその意味の考察、(3)グローバルな文脈での位置づけ、そして(4)若い世代との対話と継承、という4つの目的を持つ連続シンポジウムを企画したい。

なお、「引揚を語る・考える」場を日本社会に閉じず、在日朝鮮人、在日華僑、中国帰国者や東北アジアの関係者・研究者等広い範囲からの参加を目指し、「日本帝国」崩壊後の「引揚・送還・残留を語り・考える」場を広くアジアで共有していきたい。

### II. プログラム

(1)連続シンポジウム企画のご挨拶(13:30~13:40)

蘭 信三(上智大学) 「引揚・送還・残留と戦後東アジア社会」

(2)引揚を語る(13:40~15:00)

立石正博氏(北朝鮮引揚者)

佐藤敦子氏(満洲引揚者)

大島満吉氏(満洲引揚者)

(3)引揚を考える(15:15~16:00)各30分程度

浅井亜紀子(桜美林大学)

『天馬山 北朝鮮からの引揚げ者の語り』(2016)を刊行して

佐藤 量(立命館大学)

「想起される満洲 旧植民地学校同窓会を手がかりに」

(4)総括討論「引揚を問う、引揚から問い直す」(16:00~16:30)

参加無料・登録不要

主催:上智大学国際関係論・蘭科研班

連絡先;E-mail:[kaken25245060@gmail.com](mailto:kaken25245060@gmail.com) Fax:03-3238-3592